

平成 23 年度社会調査実習報告書  
—高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査—

平成 24 年 3 月

関西大学総合情報学部



## はじめに

この報告書は、「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の調査結果をまとめたものである。本調査は、高槻市民を対象に平成 23 年 8 月～9 月に高槻市と関西大学が共同で実施したものであり、関西大学総合情報学部の社会調査実習の一環として行われた。

この調査の目的は、高槻市民のくらしや考え方を調べることにあり、その目的に対応した本調査の特徴として、幅広い項目を扱っている点が挙げられる。なぜなら私たちの生活は、地域参加、政治参加、つながり、インターネット、家族、健康、教育、仕事、グローバル化など、多くの要因が相互に影響を与え合いながら成り立っているものだからである。したがって、高槻市民の生活実態を調べるためには、あえて同じ調査票内に幅広い項目を取り入れ、相互の関連を調べる必要があると思われたのである。そのために、社会調査実習の受講生から各自の関心に沿った幅広い調査項目を募り、調査票を作成していった。

その結果、幅広い項目が調査票に含まれることとなったが、その中でも、とくに全体的な関心の傾向として、地域でのつながりや格差、家族とのつながり、インターネットの 3 点が浮かび上がってきたといえる。これらはいずれも、2011 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災で重要性が再認識され、今まさに自治体ごとの在り方が問い直されているものである。したがって、これらの 3 つの視点を中心に検討していくことは、高槻市民の生活実態を明らかにしていくうえでも有益であるといえるだろう。そこで本報告書は、これらの 3 つの視点からまとめていくこととした。

そして本調査では、回収率があまり高くないとされてきた郵送調査法において、有効回収率が 60%を超えた質の高いデータを得ることに成功している点も強調しておきたい。この成果は何よりも、調査対象となった高槻市民のご協力のおかげである。ご協力いただいた高槻市民に心より感謝申し上げたい。

また、高槻市役所政策企画室の方々には共同で調査を行うにあたり、調査の打ち合わせや対象者の抽出など、様々にご協力いただいた。さらに、松本渉先生をはじめとした関西大学総合情報学部の先生方や、綱木寛さんをはじめとした関西大学総合情報学部事務チームの方々にも、高槻市と関西大学が連携を行っていくにあたり、ご尽力いただいた。そして社会調査実習に参加した学部学生の頑張りなくして、本調査は完遂することはできなかったであろう。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本調査が、高槻市の益々の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

2012 年 3 月

関西大学総合情報学部「社会調査実習」担当講師 赤枝尚樹

## 目次

はじめに			i
<b>第1部 本調査について</b>			1
第1章 調査の概要	赤枝尚樹		3
第2章 調査実施上の工夫と調査票の回収状況	松本渉		9
第3章 調査結果の概要			17
<b>第2部 地域と格差</b>			53
第4章 公共交通機関の満足感と利用頻度の分析	曾我良輔		55
第5章 地域社会をより良いものにするためには	岡野千尋		61
第6章 コミュニティへの参加実態と政治意識の関連性	松原里紗		77
第7章 高槻市における政治参加のジェンダーギャップ	萬代有紀		85
第8章 国際化社会と外国人労働者の受け入れに関する一考察	松下翔子		91
第9章 学力低下・格差問題	井澤宗志		97
第10章 関西大学と高槻市	河合瞬		107
<b>第3部 高槻市民の家族関係</b>			113
第11章 婚姻状態と健康状態	濱本希美		115
第12章 ネット環境における家族との関係について	福井紫穂		121
第13章 夫婦関係を保つもの	吉岡志帆		127
<b>第4部 高槻市民とインターネット</b>			137
第14章 インターネット利用増加におけるテレビ視聴	本村直弥		139
第15章 デジタルデバイド	長谷川杏		149
第16章 インターネットと読書離れ	大庭貫治		157
<b>資料</b>			163
単純集計結果			165
予告はがき			187
調査票			189

# 第1部 本調査について



# 第1章 調査の概要

赤枝尚樹

## 1 高槻市の特徴

調査対象となった高槻市は、大阪の北摂地域にあり、大阪市と京都市のほぼ中間に位置する。総務省統計局（2012）によると、2010年10月1日現在で人口は357,359人であり、面積は105.31km<sup>2</sup>、人口密度は3393.4人/km<sup>2</sup>である。都市的地域を表す人口集中地区には高槻市人口の96.3%にあたる344,050人が居住していることから、市の大部分に市街地が広がっていると考えることができるだろう<sup>1)</sup>。

また、高槻市は2003年に中核都市に移行している。中核都市は大都市制度において政令指定都市に次ぐ位置を与えられているものであり、このことから高槻市は、大阪市と京都市という2つの政令指定都市の間をつなぐ上で重要な位置を占めているといえる<sup>2)</sup>。

そして、高槻市を年齢分布の点からとらえたのが、図1である。これをみると、全国の傾向と比較して、男性では35～39歳の人口が多い点、女性では60～64歳の人口が多い点が特徴といえるだろう。

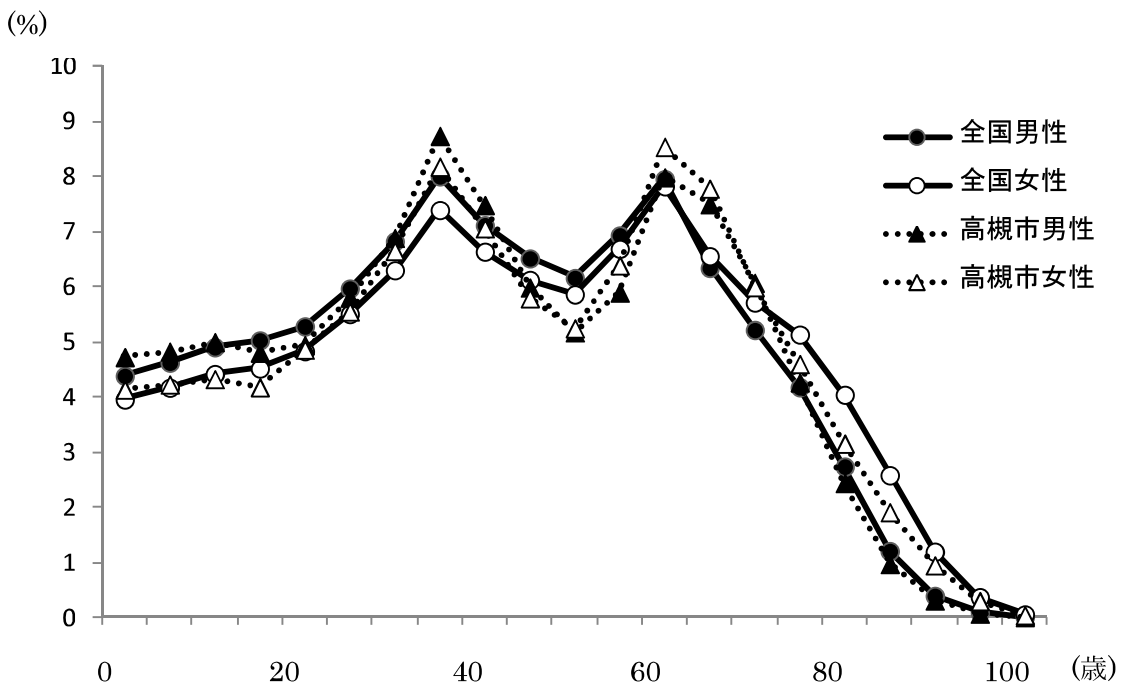


図1 年齢階級別人口比率（総務省統計局（2012）より作成）

## 2 調査の概要

### 2.1 調査の概要とスケジュール

このような高槻市を対象とした「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」は、平成23年8月から9月にかけて、高槻市と関西大学総合情報学部によって行われた。そして調査票の作成と郵送を含む多くの作業は、社会調査実習の一環として行われた。調査のスケジュールは以下の表1の通りである。

表1 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査スケジュール

	授業内	授業外
2011/4/5	前期授業開講	
4/5～4/19	問題意識の明確化と仮説の構築	高槻市との交渉と打ち合わせ
4/26～5/17	質問文の作成	
5/24～7/19	調査票の作成	
8/8		発送準備作業
8/22		予告はがき送付
8/25		調査票発送
9/9		返送締切日
9/20	後期授業開講	
9/20～10/25	データの打ち込み・読み合わせ・ データクリーニング	データの打ち込み・読み合わせ・ データクリーニング
11/1～11/29	分析	
12/6～2012/1/17	レポートの執筆と報告	調査結果速報版
1/31	レポート提出・授業終了	レポート執筆

調査方法は郵送調査法である。調査票の内容については、社会調査実習参加者から各自の関心がある項目を募り、それに高槻市が考案した項目を組み合わせで作成された。主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・ 近隣関係
- ・ 公共交通機関の利用状況
- ・ 市税や各種公共料金の支払いについて
- ・ 高槻市の風景について
- ・ インターネット利用
- ・ 読書
- ・ 関西大学のイメージ



- ・社会参加
- ・政治参加
- ・外国人に対する意識
- ・食と健康
- ・家族関係

設問数は74であるが、小問や多重回答を含めるとその倍以上となり、分量は多いといえる。しかしながら、有効回収率を考慮すると、全体のページ数は少ないほうがよい。このような背景から、調査票のスペースを効率的に使うために、調査票は2段組みのものを採用し、8ページに収めるように工夫した<sup>3)</sup>。

## 2.2 発送と回収

調査対象は高槻市に居住する平成23年7月末日現在の総人口357,810人（住民基本台帳人口354,918人、外国人登録台帳人口2,892人）のうち、20歳～84歳の男女とした。計画標本サイズは2,000人である。抽出に関しては性別と年齢によって層化し、層ごとに無作為抽出を行っている<sup>4)</sup>。また、調査票を送付する前の8月22日に予告はがきを送付し、その後、8月25日に調査票を対象者のもとの郵送した。その際に、ボールペンと返信用封筒を同封している。

そして有効回収数は1,225票であり、回収率は61.3%であった。調査票の回収状況は、以下の図2のとおりとなっている<sup>4)</sup>。図2より、調査期限とした9月9日までに、有効回収数の95%以上（1166票）が投函されていることがわかる。

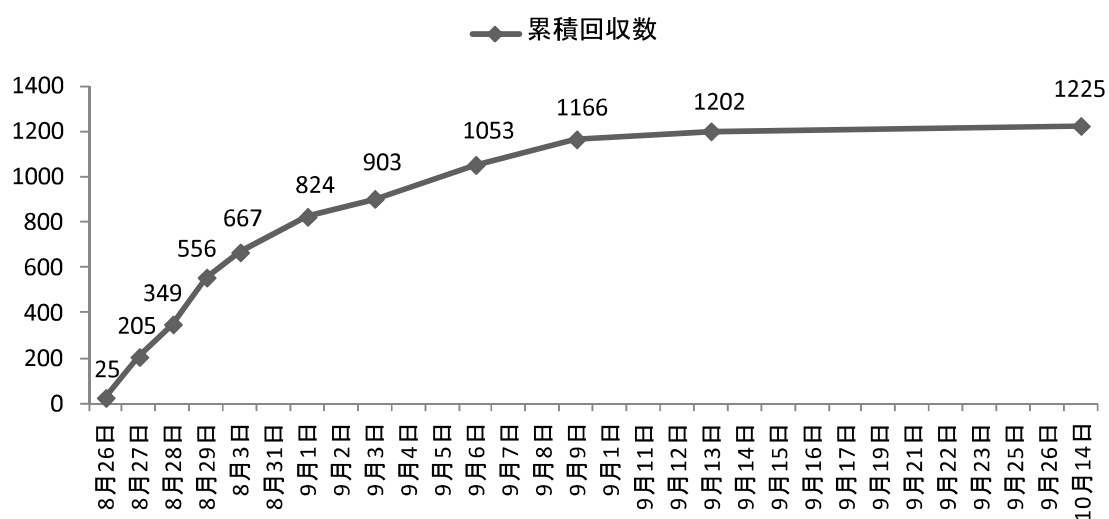


図2 回収の推移（日付は返信用封筒の消印日）

## 2.3 データの打ち込み・読み合わせ・クリーニング

後期の授業開始日である9月20日から、データの打ち込み作業に取り組んだ。打ち込みの際には、準備したExcelシートに各項目の回答を打ち込んでいった。その際に、無回答は99と9999を用い、非該当は8または8888とした。

10月18日からは、打ち込んだ内容の読み合わせ作業を行った。その際には、ヘッドホンを利用してExcelの読み合わせ機能を用いた作業を行い、時間の短縮を図った。

また、分析に入る前に、いくつかデータのクリーニングの必要があった。第一に、4択の質問項目に5番目の選択肢を作成するなど、回答者が自ら新しい選択肢を作成しているケースである。この場合は、新たに「その他」カテゴリを作成し、そこに割り振ることとした。そして第二に、1つの選択肢のみを選ぶ設問に対して、多重回答のように複数の回答があった場合である。この場合は乱数を発生させ、回答のあったもののうちでランダムに1つの選択肢に割り振った。さらに第三に、Q59\_Aで「未婚」と回答したにもかかわらずQ59\_BからQ63までを回答しているなどの矛盾したケースについては、ロジカルチェックを行った。

本報告書は、これらのクリーニングを経たデータセットを利用して執筆されている。

## 2.4 分析

11月1日からは、SPSSを用いた分析に入っていた。調査実習に参加した学生の大半がSPSSの利用は初めてであったため、まずはデータビューと変数ビューの見方や基本的な操作法などから習得していった。その後、単純集計表や、平均・標準偏差などの記述統計量の算出方法を伝えた。そして、クロス表分析・t検定と分散分析・相関分析・重回帰分析など、実際にデータを分析するための手法について伝えた。各自が自分の仮説に適した分析手法を選択することができるようになることが最大の目標であり、それに向けて個別にアドバイスをを行った。

そして、各自の分析結果の報告ののちに、レポートの書き方、図表の作成方法についての授業を行い、各自がレポートを仕上げた。そうして仕上げられたレポートが、本報告書の根幹をなしている。

## 3 今後の課題

以上のように、本調査は郵送調査で61.3%の回収率を達成するなど成功を収めたといえる本調査であるが、最後に今後の課題について述べたい。

本調査を調査実習の一環として継続して行っていくにあたり今後考慮すべき点をあえて挙げるとすれば、調査票の分量とサンプルサイズである。本調査では小問や多重回答を含めて150項目以上を含む調査票で61.3%の回収率を誇り、有効票1,225票を回収した。この点は大きな成功として強調してよい。ところがこのことから、打ち込みと読み合わせの作業に予定よりも多くの時間と労力を割くことが必要となり、分析に用いる時間が少なく

なってしまうという悩ましい問題に直面することとなった。

社会調査実習においては、参加者が自分の仮説を検証していく分析の部分が醍醐味である。また、しっかりとした分析が行われることは、多くの対象者の協力によって集められたデータを最大限活用し、市民にとって有益な調査結果を公表していくためにも有益な作業である。したがって、本調査をたたき台に調査票の分量とサンプルサイズを調整し、仮説を実際に検証していく時間を十分確保していくことができれば、社会調査実習、さらには調査がより実りの多い充実したものとなるであろう。その点が、今後の課題と思われる。

#### 注

- 1) 総務省統計局（2012）より、平成 22 年国勢調査の値を用いた。
- 2) これ以前の高槻市の歴史については、川端・吉川編（2002）に詳しい。
- 3) この点が回収率の向上に寄与したと思われる。詳しくは、次章を参照。
- 4) 標本の抽出作業は、高槻市総務部 IT 政策室電算センターにご担当いただいた。
- 5) 調査票の回収についても、詳しくは次章を参照。

#### 文献

川端亮・吉川徹編, 2002, 『高槻市民の社会とコミュニティに関する意識調査報告書』大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座 先進経験社会学・社会データ科学研究分野.  
総務省統計局, 2012, 「平成 22 年国勢調査」  
(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>, 2012 年 3 月 1 日取得) .



## 第2章 調査実施上の工夫と調査票の回収状況

### 松本 渉

本調査では、回収率を最大限に向上させるため様々な工夫により、61.3%の回収率を実現できた。本節では、そのようなく調査実施上の工夫>と調査票の返送状況の経過などを含む<調査票の回収状況>、さらに<回収標本の特徴>について説明する。

#### <調査実施上の工夫>

- 予告依頼ハガキの送付

調査票が届き次第、スムーズに回答できるように調査票の発送の三日前に予告依頼ハガキを送付した。このように事前に調査の実施をお知らせすることで、調査対象者は、心の準備ができるし、調査に対する期待感を高めると考えたからである。なお、見やすくシンプルな文面とするため、ご挨拶以外にハガキに掲載した情報は最小限（「近日中に大きな茶封筒（ボールペン入り）が届くこと」「対象者が無作為で選ばれたこと」の二点）にとどめた。今回は、勤め人の夏休みなどを避けるため、お盆休みが確実に終わったと考えられる8月22日（月）のタイミングで予告ハガキを送付した。

- 調査票送付日：平成23年8月25日（木）

勤め人の夏休みなどを避けるため、お盆休みが確実に終わってから最初の木曜日に送付した。対象者がおおむね金曜日頃に調査票を受け取るためである。

- 同封物

筆記具を探す必要がないようにという配慮から、箱入りボールペンを同封した。また、箱を同封することで封筒の形状を目立たせ、ほかの郵便物に紛れないようなという効果もある。なお事前にも事後にも金銭的な謝礼は一切行っていない。

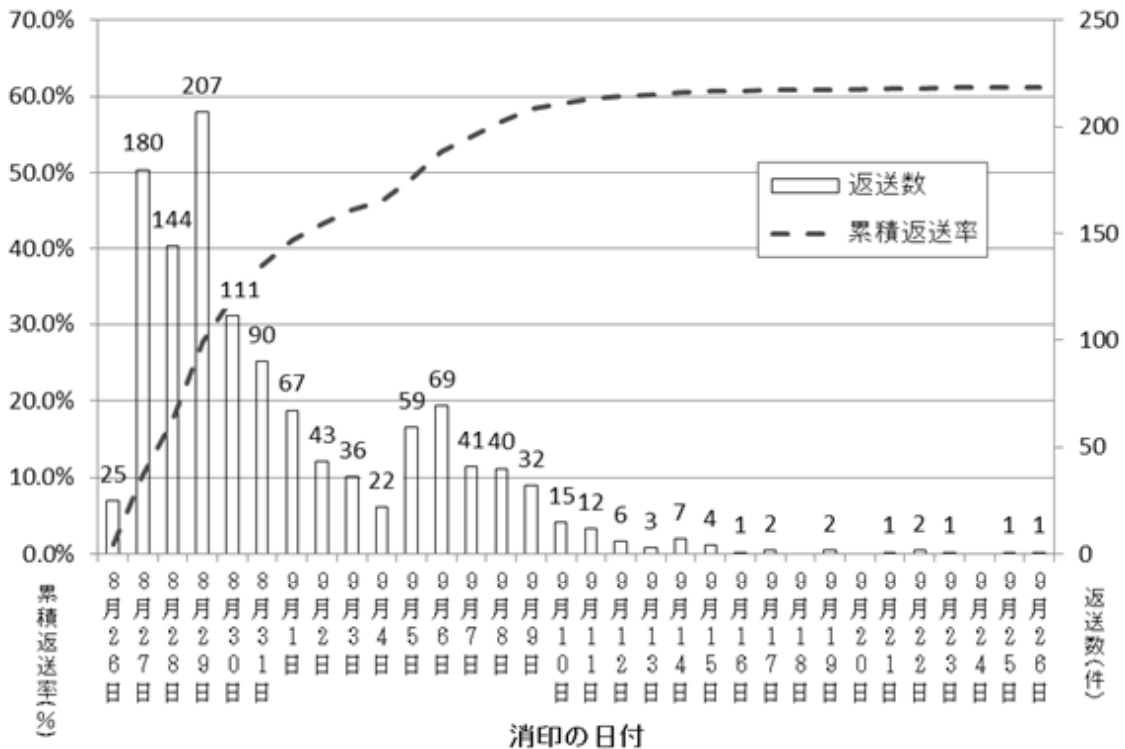
- 調査票の用紙

目立つように、薄黄緑色の紙を使用した。また、やや重くなるが、裏面が透けて読みにくくならないように厚口の紙を利用した。

- 調査票における挨拶文  
すぐに質問文が目に入るようにするため、挨拶文は 1 ページ目の上段のみにとどめた。その主な内容は、①調査目的以外に一切利用しないこと、②結果の公表を約束すること、③住所や名前を記入しないことをお願いすることの三点である。それぞれ、①安心感の付与、②社会還元の明示、③匿名性の担保の効果がある。
- 調査票の構成デザイン  
二段組にすることによってスペースを有効に利用し、A4 サイズ 8 ページ（両面）の範囲で収まる調査票にした。文字フォントは、質問文を太字の MS ゴシック、選択肢を MS 明朝としてメリハリをつけた。
- 封筒  
調査票送付用封筒については、A4 サイズの調査票を折り曲げずに済むように、角 2 サイズのスチック糊付済み返信用封筒を利用した。  
一方、返信用の封筒については、ハイシール加工済みの角 2 サイズの封筒を利用した。調査対象者が、回答票を封入して返送しやすくするためである。
- 催促状の送付などは、一切していない。

<調査票の回収状況>

図 1 時系列に見た調査票の返送状況



(注)

- ・ 返送数…回答票の返送日ごとの件数（日付は消印による）。
- ・ 累積返送率…その日までに返送された件数の累計を計画標本サイズでわった値。調査終了時点では、回収率（61.3%）に一致する。なお、図中では省略したが、10月14日に届いた回答票が1件ある。

次に、調査票の返送状況について述べる。図 1 は、消印の日付から調査票の返送状況の経過を示したものである。最も早い消印は翌 26 日（金）である。調査票の送付日は平成 23 年 8 月 25 日（木）であることから、早い人では受け取ってすぐに投函していることがわかる。またこの図からは、その後の日数の経過とともに返送数が減っていく全体的な傾向を示しながらも、返送に 3 つの山があることがわかる。

第一の山は、返送数 180 の 8 月 27 日（土）である。投函日と消印日付は必ずしも一致しないので多少のずれはあるが、それを考慮しても、これは受取直後の記入・返送のピークといえよう。第二の山は、最大の返送数（消印基準）207 を記録している 8 月 29 日（月）である。前日の日曜日は、郵便物の集荷の頻度が少なくなる影響もあるが、調査票受領後すぐにおとずれた土日を利用して調査票に記入をした回答者が、28 日（日）や 29 日（月）

に投函したことが反映している。第三の山は、二回目の火曜日である 9 月 6 日である。その前日の 9 月 5 日（月）も含め、二回目の土日を利用して調査票に記入した対象者が一定数いることがわかる。

**表 1 調査不能等の内訳**

	件数	(%)
1. 未送付調査票		
事前拒否	2	(0.1%)
依頼状の返送等	4	(0.2%)
計	6	(0.3%)
2. 送付調査票		
尋ねあたらず等	3	(0.2%)
未返送	761	(38.1%)
無効調査票	5	(0.3%)
有効回答票	1225	(61.3%)
計	1994	(99.7%)
3. 計画標本サイズ（合計）	2000	(100.0%)

郵送調査の特質上、締切日の 9 月 9 日（金）以降も調査票の返送が続いた。そのためしばらくの間返送を受け付けたが、10 月 14 日（金）消印の調査票を回収したところで調査を打ち切った。返送されてきた調査票総数は 1,230 件あったが、5 件については記入状況から無効と判断し、最終的に有効な回答票数を 1225 件、回収率を 61.3%とした。なお、その他の調査不能の理由も含め、調査の状況は表 1 の通りである。

次に、回収率について検討する。男女別・年齢層別に回収率を計算した結果が表 2 と表 3 である。

**表 2 男女別の回収率**

	男性	女性	不明	合計
回収標本	519	698	8	1,225
計画標本	964	1,036	—	2,000
回収率(%)	53.8%	67.4%	—	61.3%

(注) 男女別の回収率の計算には、不明分 8 が含まれていない。



表 3 年齢層別の回収率

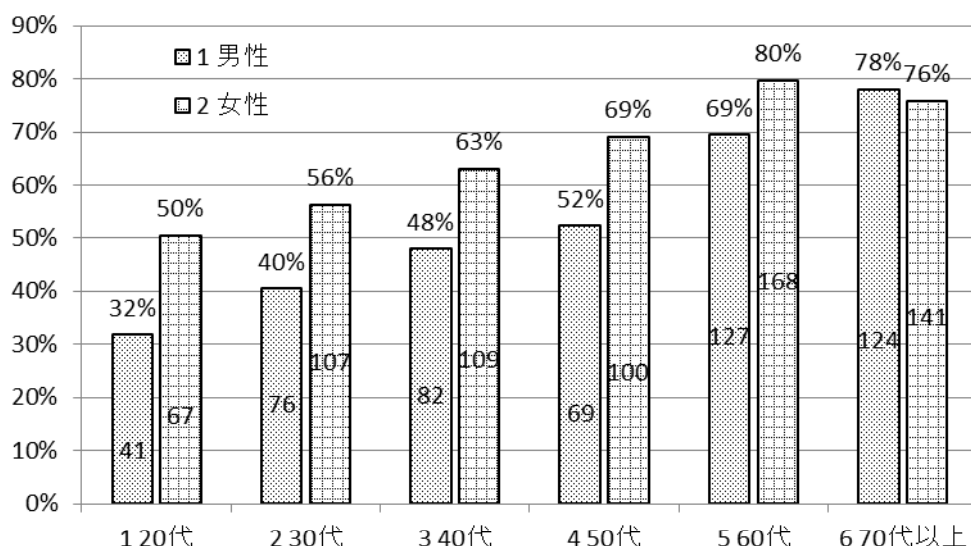
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
回収標本	109	184	191	169	296	265	11	1,225
計画標本	262	378	344	278	394	344	—	2,000
回収率(%)	41.6%	48.7%	55.5%	60.8%	75.1%	77.0%	—	61.3%

(注) 年齢層別の回収率の計算には、不明分 11 が含まれていない。

男女別の回収率については、男性 53.8%、女性 67.4%となり、女性の方が 14%ほど高い。年齢層別の回収率では、70代以上が 77.0%と一番高く、年齢が下がるにつれて回収率が低下し、20代では 41.6%と最も低い。

この点では、男性よりも女性において、若年層よりも高年齢層において回収率が高くなるという一般的な傾向とほぼ類似している。ただし、男女・年齢層を同時に分類して回収率を計算すると(図 2)、男性においては、若年層よりも高年齢層において回収率が高くなるという傾向がうかがえるが、女性においては、60代女性が最も回収率が高く、70代以上ではややそれを下回っている。また、各年齢層別でも、おおむね男性よりも女性の方が回収率は高くなるが、70代以上では、男性の方が女性よりも回収率が高く出ているので注意が必要である。

図 2 男女・年齢層別の回収率



(注)

- ・棒グラフの高さおよび上側の数字は、回収率をあらわしている。
- ・棒グラフの内側の数字は、各層における実際の回収数。
- ・男女別・年齢層別のいずれかで不明となった分(14件)は含まれていない。

<回収標本の特徴>

前述した男女別・年齢層別の回収率の違いにより，回収標本が母集団からある程度ずれている可能性がある。そこで，回収標本が母集団とどの程度の乖離があるかを検討する。

表 4 男女・年齢別の人口分布の比較

性別	年齢	回収標本		H23 年 6 月末人口	
		回収標本	%	6 月末人口	%
男性	20 代	41	(3%)	18,371	(6%)
男性	30 代	76	(6%)	26,764	(9%)
男性	40 代	82	(7%)	24,448	(9%)
男性	50 代	69	(6%)	18,839	(7%)
男性	60 代	127	(10%)	26,058	(9%)
男性	70～84	124	(10%)	22,616	(8%)
女性	20 代	67	(6%)	18,937	(7%)
女性	30 代	107	(9%)	27,078	(10%)
女性	40 代	109	(9%)	24,585	(9%)
女性	50 代	100	(8%)	20,687	(7%)
女性	60 代	168	(14%)	30,017	(11%)
女性	70～84	141	(12%)	26,417	(9%)
合計		1,211	(100%)	284,817	(100%)

$$\chi^2=71.5654 \text{ (df=11), } p=0.0000$$

(注)

- ・ 表右側の H23 年 6 月末人口は，高槻市全体の母集団人口である。高槻市の人口平成 23 年 (<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/shisei/profilekeikaku/tokeijoho/jinko/h23/index.html>) 参照。
- ・ 表下の統計量は，右側の分布を理論度数とし，左側の回収標本における観測度数の分布の適合度検定を行った結果である。

表 4 は，母集団における男女・年齢別の人口分布と回収標本における男女・年齢別の人口分布を比較したものである。適合度検定を行うと，高度に有意となり，男女・年齢別の人口分布について，回収標本は母集団と乖離している。とりわけ 20 代，30 代の男性といった回収率の低い層では過少な人口割合を示している一方で，女性 60 代といった高回収率層の人口割合は過大になっている。

表 5 世帯人員別世帯数分布の比較

世帯人員数			H23年6月末	
	回収標本	%	世帯人員数別人口	%
1人	115	9.4%	49,903	13.9%
2人	394	32.2%	90,484	25.3%
3人	307	25.1%	85,212	23.8%
4人	256	20.9%	93,164	26.0%
5人	99	8.1%	31,245	8.7%
6人	24	2.0%	6,078	1.7%
7人	9	0.7%	1,463	0.4%
8人	2	0.2%	360	0.1%
9人	0	0.0%	45	0.0%
10人	0	0.0%	50	0.0%
11人以上	0	0.0%	0	0.0%
無回答	19	1.6%	—	—
合計	1,225	100.0%	358,004	100.0%

$$\chi^2=60.0934 (df=9), p=0.0000$$

(注)

- ・ 表右側の世帯人員数別人口は母集団の分布であり、高槻市の人口平成23年(<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/shisei/profilekeikaku/tokeijoho/jinko/h23/index.html>)から算出した。ただし、回収標本が20歳～84歳で構成されているのに対し、表右側の世帯人員数別人口には未成年および85歳以上も含まれている。
- ・ 表下の統計量は、右側の分布を理論度数とし、左側の回収標本における観測度数の分布の適合度検定を行った結果である。

高槻市の統計では、世帯人数別の人口分布もわかるので、この点についても回収標本と母集団との間の人口分布の比較を行った(表5)。その結果、この比較においても、適合度検定は高度に有意となり、両者には乖離がみられた。母集団の人口分布には未成年や85歳以上が含まれるため、本来回収標本の方で一人世帯の割合が大きくなってよいはずであるが、むしろ回収標本では母集団と比べて一人世帯割合が過小となり、二人世帯割合が過大となっている。一人世帯が多い20代の低回収率の影響がここにも見られる。

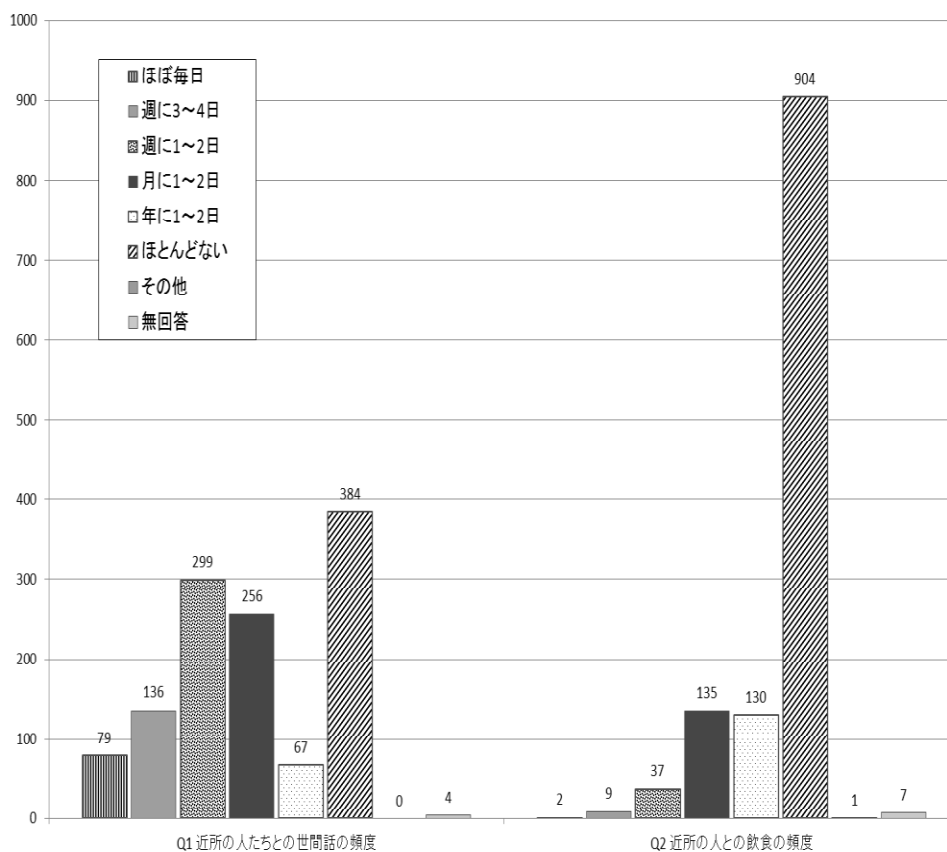
謝辞：

本調査の回収率の向上のため、松田映二氏(元朝日新聞社)、前田忠彦氏(統計数理研究所)から郵送調査についてのご助言・情報をご提供頂いた。ここに謝意を表したい。



### 第3章 調査結果の概要

#### 1. 地域と格差



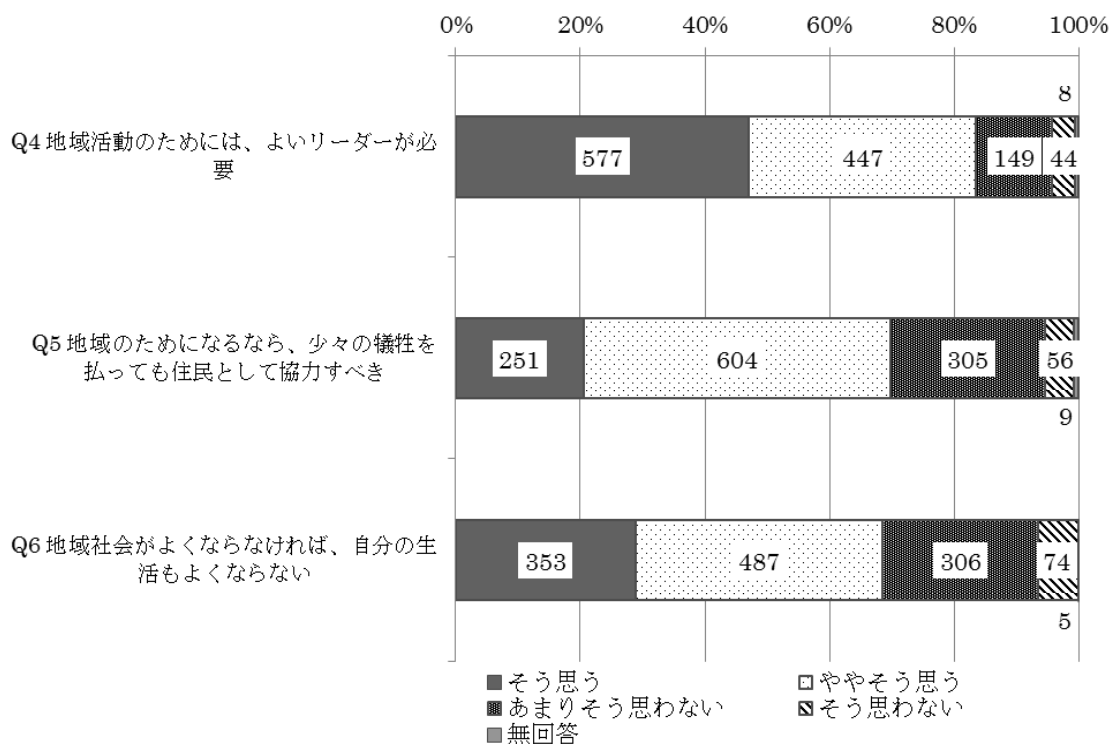
近所づきあいに関する Q1 と Q2 をみると、「ほとんどない」が一番多い。この項目はこうした傾向があることが知られており、高槻市が特に少ないということではない。

#### Q3 現在住んでいる地域にどの程度住み続けたいか

	度数	パーセント
ずっと住み続けたい	316	25.8
住み続けたい	307	25.1
まあ住み続けたい	286	23.3
どちらともいえない	206	16.8
機会があれば引っ越したい	105	8.6
無回答	5	0.4
合計	1,225	100.0

Q3 については、「ずっと住み続けたい」「住み続けたい」「まあ住み続けたい」が合わ

せて 74.2%となっており、住み続けたいと感じている高槻市民が多いことがわかる。



Q4～Q6からは、高槻市民が地域社会の重要性を認識していることがうかがえる。

Q7 友人数4カテゴリ

	度数	パーセント
2人以下	308	25.1
3～5人	481	39.3
6～9人	125	10.2
10人以上	246	20.1
無回答	65	5.3

Q7からは、70%近くの市民が3人以上の友人がいるが、25%程度市民は友人数が2人以下であると認識していることがわかる。

**Q8 救急車を呼ぶかどうかの判断に迷ったことはあるか**

	度数	パーセント
はい	403	32.9
いいえ	806	65.8
無回答	16	1.3
合計	1,225	100.0

Q8からは、救急車を呼ぶかどうかの判断に迷ったことがある市民が3割以上いることがわかる。

**Q9 夜間や休日でも、急な病気やけがを診てもらえる医療機関を知っているか**

	度数	パーセント
はい	1,044	85.2
いいえ	166	13.6
無回答	15	1.2
合計	1,225	100.0

**Q10 救急安心センターおおさかを以前から知っていたか**

	度数	パーセント
はい	294	24.0
いいえ	920	75.1
その他	1	0.1
無回答	10	0.8
合計	1,225	100.0

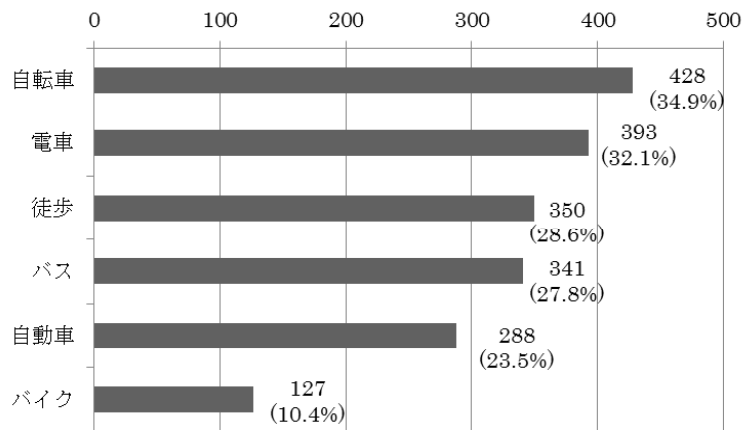
Q9とQ10からは、夜間や休日でも診てもらえる医療機関を85%以上の市民が知っており、救急安心センターおおさかを知っていた市民が24%であることがわかる。

Q11 高槻市内の公共交通機関についての満足感

	度数	パーセント
満足	215	17.6
やや満足	468	38.2
どちらともいえない	349	28.5
やや不満	133	10.9
不満	47	3.8
無回答	13	1.1
合計	1,225	100.0

Q11 から、高槻市内の公共交通機関に不満を持っている市民は 15%未満と、少ないことがわかる。

Q12 通勤通学手段（複数回答可）



Q12 から、通勤・通学手段として自転車や電車を用いている市民が約 3 割以上いることがわかる。

Q13 高槻市内でのバスの利用頻度

	度数	パーセント
ほぼ毎日	83	6.8
週に 3~4 日	79	6.4
週に 1~2 日	133	10.9
月に 1~2 日	319	26.0
年に 1~2 日	305	24.9
利用していない	298	24.3
無回答	8	0.7
合計	1,225	100.0

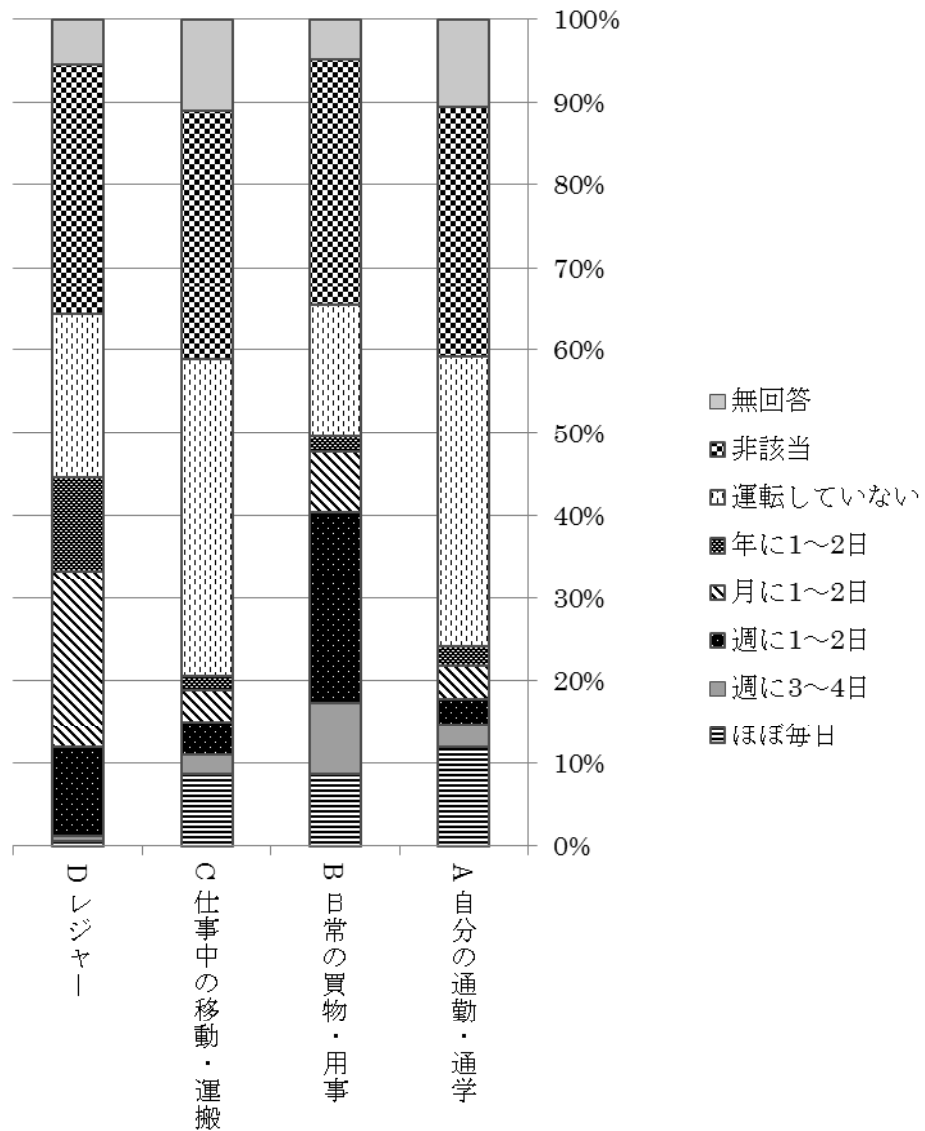
Q13 から、5 割近くの市民が月に 1 回以上高槻市内でバスを利用していることがわかる。



Q14 自動車免許の有無

	度数	パーセント
免許を持っている	798	65.1
免許を持っていない	368	30.0
無回答	59	4.8
合計	1,225	100.0

Q15\_a [車の運転頻度]



Q14 と Q15 をみると、65.1%の市民が自動車免許を持っており、特に買い物での利用が多いことがわかる。

**Q16\_a 市税や市の各種料金を市役所、金融機関の窓口時間外に支払いたいと思ったことがあるか**

	度数	パーセント
はい	452	36.9
いいえ	662	54.0
無回答	111	9.1
合計	1,225	100.0

**Q16\_b 市税や市の各種料金をクレジットカードで支払えるようになってほしいか**

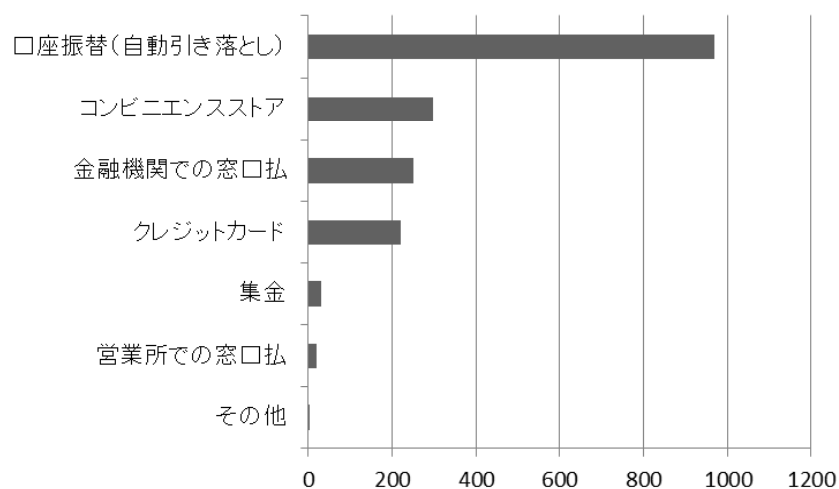
	度数	パーセント
はい	421	34.4
いいえ	703	57.4
その他	1	0.1
無回答	100	8.2
合計	1,225	100.0

**Q16\_c B のクレジットカードの手数料負担(支払額の約1%を想定)についての意見**

	度数	パーセント
市役所が全額負担すべき	709	57.9
一部負担してもよい	222	18.1
全額負担してもよい	78	6.4
その他	6	0.5
無回答	210	17.1
合計	1,225	100.0

Q16 A~C をみると、市税や市の各種料金を市役所や金融機関の窓口時間外に支払いたいと考える市民や、市税や市の各種料金をクレジットカードで支払えるようになってほしいと考える市民が、3割以上いることがわかる。

### Q16\_d [公共料金の支払い方法]



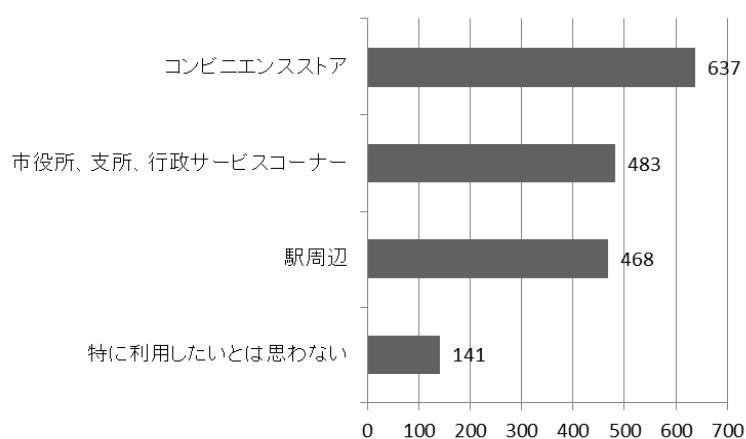
Q16 D をみると、公共料金の支払い方法としては、口座振替が多いことがわかる。

### Q17 住民票や各種証明書等を市役所の窓口時間外で取得し

たいと思ったことがあるか

	度数	パーセント
はい	756	61.7
いいえ	448	36.6
無回答	21	1.7
合計	1,225	100.0

### Q18 [住民票や各種証明書等の自動交付機での交付希望場所]



Q17 と Q18 から、住民票や各種証明書等を市役所の窓口時間外で取得したいと思ったことがある市民が 6 割を超えていることがわかる。また、住民票や各種証明書等の自動交付機での交付希望場所としては、コンビニエンスストアが多く挙げられている。

**Q19 高槻市の風景についての関心**

	度数	パーセント
大いにある	331	27.0
少しはある	648	52.9
あまりない	199	16.2
まったくない	26	2.1
無回答	21	1.7
合計	1,225	100.0

**Q20 高槻市全体の風景に対する印象**

	度数	パーセント
非常に良い	54	4.4
やや良い	536	43.8
どちらともいえない	507	41.4
やや悪い	97	7.9
非常に悪い	17	1.4
無回答	14	1.1
合計	1,225	100.0

**Q21 お住まいの地域の風景に対する印象**

	度数	パーセント
非常に良い	98	8.0
やや良い	554	45.2
どちらともいえない	396	32.3
やや悪い	140	11.4
非常に悪い	23	1.9
無回答	14	1.1
合計	1,225	100.0

Q19～Q21 をみると、高槻市の風景についての関心は高いことがわかる。そして、高槻市全体やお住まいの地域の風景については、約 5 割の市民がよい印象をもっており、悪い印象を持っている市民は 1 割ほどしかいない。

**Q22 高槻市の田畑が広がる風景で最も気になるもの**

	度数	パーセント
ふつりあいな広告物	307	25.1
管理されずに放棄された田畑	416	34.0
風景を損なう建物	277	22.6
その他	119	9.7
無回答	106	8.7
合計	1,225	100.0

**Q23 高槻市の昔ながらの風景をより良くするための最も必要なもの**

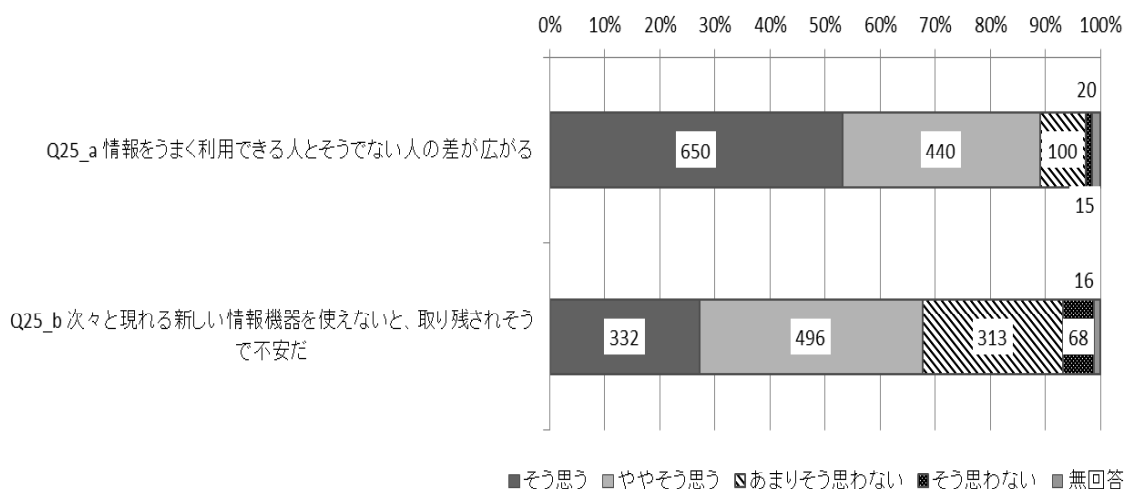
	度数	パーセント
建物を歴史的な雰囲気と調和させること	320	26.1
広告物を歴史的な雰囲気と調和させること	93	7.6
歴史的な建物を保全・活用すること	723	59.0
その他	34	2.8
無回答	55	4.5
合計	1,225	100.0

**Q24 高槻市の市街地の風景をより良くするために最も必要なもの**

	度数	パーセント
緑を多くする	607	49.6
建物のデザインや色彩を統一したまちなみを形成する	266	21.7
広告物の色・大きさ・掲示方法についてのルールを作る	243	19.8
その他	63	5.1
無回答	46	3.8
合計	1,225	100.0

Q22～Q24 をみると、高槻市の田畑が広がる風景で最も気になるものとしては「管理されずに放棄された田畑」、昔ながらの風景をより良くするための最も必要なものとしては「歴史的な建物を保全・活用すること」、市街地の風景をより良くするために最も必要なものとしては「緑を多くする」ことが、もっとも多く挙げられていることがわかる。

## 2. 高槻市民とインターネット



Q25 からは、約 9 割の市民がインターネットが情報をうまく利用できる人とそうでない人の差を広げると感じており、約 7 割の市民が次々と現れる新しい情報機器を使えないと、取り残されそうで不安だと感じていることがわかる。

Q26 1 日あたりのテレビの平均視聴時間

	度数	パーセント
1 時間以内	174	14.2
2～3 時間	526	42.9
4～5 時間	387	31.6
6 時間以上	126	10.3
無回答	12	1.0
合計	1,225	100.0

Q27 1 日あたりの携帯電話(PHS 含む)での平均通話時間

	度数	パーセント
1 時間以内	1,069	87.3
2～3 時間	39	3.2
4～5 時間	9	0.7
6 時間以上	4	0.3
その他	12	1.0
無回答	92	7.5
合計	1,225	100.0

Q26 と Q27 から、1 日あたりのテレビの平均視聴時間は 2～3 時間が最も多いこと、1 日あたりの携帯電話 (PHS 含む) での平均通話時間が 1 時間以内の人が約 9 割であることがわかる。

Q28 パソコンまたは携帯電話でのインターネット利用をしているか

	度数	パーセント
はい	767	62.6
いいえ	376	30.7
無回答	82	6.7
合計	1,225	100.0

Q29\_a [インターネットの利用頻度] A パソコン上での電子メール

	度数	パーセント
ほぼ毎日	283	23.1
週に3~4日	56	4.6
週に1~2日	94	7.7
月に1~2日	75	6.1
ほとんどない	125	10.2
全くない	138	11.3
非該当	384	31.3
無回答	70	5.7
合計	1,225	100.0

Q29\_b [インターネットの利用頻度] B 携帯電話上での電子メール

	度数	パーセント
ほぼ毎日	442	36.1
週に3~4日	128	10.4
週に1~2日	95	7.8
月に1~2日	32	2.6
ほとんどない	32	2.6
全くない	53	4.3
非該当	378	30.9
無回答	65	5.3
合計	1,225	100.0

Q29\_c [インターネットの利用頻度] C 情報の検索

	度数	パーセント
ほぼ毎日	436	35.6
週に3~4日	129	10.5
週に1~2日	115	9.4
月に1~2日	58	4.7
ほとんどない	33	2.7
全くない	24	2.0
非該当	370	30.2
無回答	60	4.9
合計	1,225	100.0

Q29\_d [インターネットの利用頻度] D インターネットショッピング

	度数	パーセント
ほぼ毎日	7	0.6
週に3~4日	11	0.9
週に1~2日	40	3.3
月に1~2日	241	19.7
ほとんどない	268	21.9
全くない	229	18.7
非該当	370	30.2
無回答	59	4.8
合計	1,225	100.0

Q29\_e [インターネットの利用頻度] E 電子掲示板へのアクセス

	度数	パーセント
ほぼ毎日	98	8.0
週に3~4日	38	3.1
週に1~2日	41	3.3
月に1~2日	54	4.4
ほとんどない	248	20.2
全くない	308	25.1
非該当	370	30.2
無回答	68	5.6
合計	1,225	100.0



Q29\_f 【インターネットの利用頻度】 F ミクシィやフェイスブックなどのソーシャルネットワークサービス

	度数	パーセント
ほぼ毎日	98	8.0
週に3～4日	20	1.6
週に1～2日	18	1.5
月に1～2日	22	1.8
ほとんどない	138	11.3
全くない	489	39.9
非該当	372	30.4
無回答	68	5.6
合計	1,225	100.0

Q29\_f\_2 ソーシャルネットワークサービスで知人が増えたと思うか

	度数	パーセント
そう思う	34	2.8
ややそう思う	48	3.9
あまりそう思わない	91	7.4
そう思わない	124	10.1
非該当	852	69.6
無回答	76	6.2
合計	1,225	100.0

Q29\_g 【インターネットの利用頻度】 G ユーチューブなどの動画共有サービスへのアクセス

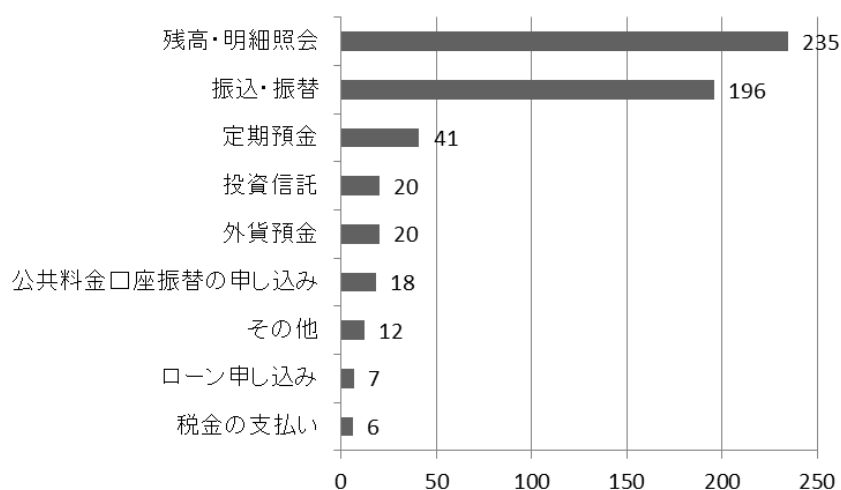
	度数	パーセント
ほぼ毎日	61	5.0
週に3～4日	67	5.5
週に1～2日	114	9.3
月に1～2日	132	10.8
ほとんどない	149	12.2
全くない	253	20.7
非該当	357	29.1
無回答	92	7.5
合計	1,225	100.0

Q29\_h [インターネットの利用頻度] H インターネットバンキング

	度数	パーセント
ほぼ毎日	11	0.9
週に3~4日	18	1.5
週に1~2日	28	2.3
月に1~2日	120	9.8
ほとんどない	119	9.7
全くない	490	40.0
非該当	353	28.8
無回答	86	7.0
合計	1,225	100.0

Q28 と Q29 をみると、インターネットを利用している市民は約 6 割であり、メールや情報検索が多いことがわかる。

Q30 [インターネットバンキングで利用したことのあるサービス]

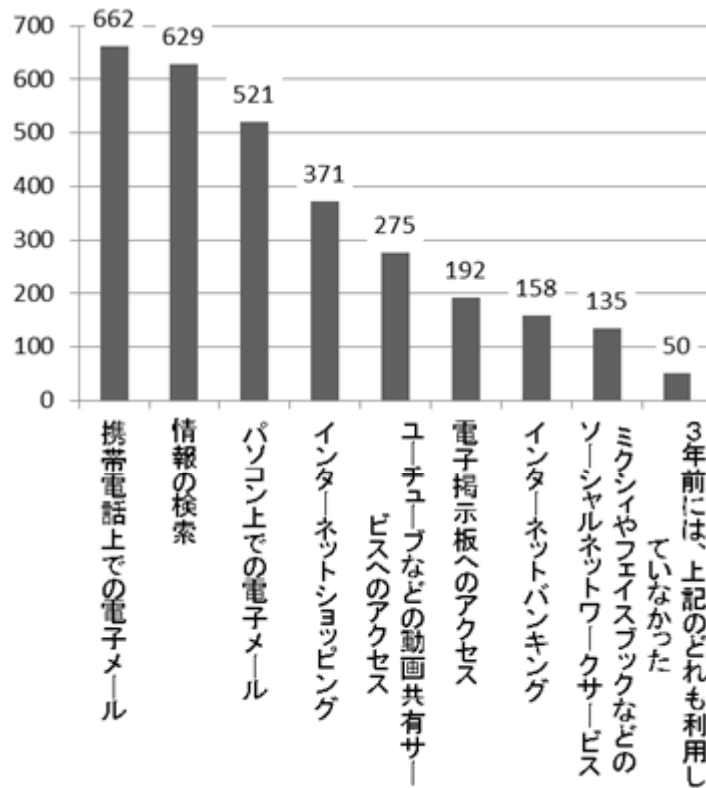


Q30 から、インターネットバンキングで利用したことのあるサービスとしては、残高・明細照会と振込・振替の順に多いことがわかる。

Q31 市税や市の各種料金をインターネットバンキングで支払うことができたなら利用したいか

	度数	パーセント
利用したい	109	8.9
まあ利用したい	98	8.0
あまり利用したくない	99	8.1
利用したくない	83	6.8
非該当	751	61.3
無回答	85	6.9
合計	1,225	100.0

Q32 [3年前に利用していたもの]



Q32 をみると、3年前に利用していたものとしては、パソコンや携帯での電子メール、さらには情報検索が多いことがわかる。この点については、現在の利用とほぼ同じといえる。

Q33 テレビを見ながらインターネットを利用するか

	度数	パーセント
常に一緒に使う	47	3.8
ときどき一緒に使う	220	18.0
あまり一緒に使わない	118	9.6
一緒に使わない	402	32.8
その他	1	0.1
非該当	359	29.3
無回答	78	6.4
合計	1,225	100.0

Q33 をみると、テレビとインターネットを同時に利用しない市民が多いことがわかる。

### 3. 日常意識・健康・家族

Q34\_a 相手や状況で態度を変える

	度数	パーセント
あてはまる	151	12.3
まああてはまる	428	34.9
どちらともいえない	345	28.2
あまりあてはまらない	198	16.2
あてはまらない	69	5.6
無回答	34	2.8
合計	1,225	100.0

Q34\_b 腹を立てる事が多い

	度数	パーセント
あてはまる	68	5.6
まああてはまる	290	23.7
どちらともいえない	389	31.8
あまりあてはまらない	360	29.4
あてはまらない	85	6.9
無回答	33	2.7
合計	1,225	100.0

Q34\_c 意見が対立したとき、相手の意見を受け入れる

	度数	パーセント
あてはまる	43	3.5
まああてはまる	345	28.2
どちらともいえない	688	56.2
あまりあてはまらない	85	6.9
あてはまらない	34	2.8
無回答	30	2.4
合計	1,225	100.0

**Q34\_d 所属集団の仲間との意見の対立を避ける**

	度数	パーセント
あてはまる	129	10.5
まああてはまる	493	40.2
どちらともいえない	398	32.5
あまりあてはまらない	96	7.8
あてはまらない	56	4.6
無回答	53	4.3
合計	1,225	100.0

**Q34\_e 自分は素直だと思う**

	度数	パーセント
あてはまる	145	11.8
まああてはまる	428	34.9
どちらともいえない	487	39.8
あまりあてはまらない	106	8.7
あてはまらない	30	2.4
無回答	29	2.4
合計	1,225	100.0

**Q34\_f 人からよく「マイペースなやつだ」と言われることがある**

	度数	パーセント
あてはまる	119	9.7
まああてはまる	307	25.1
どちらともいえない	319	26.0
あまりあてはまらない	275	22.4
あてはまらない	171	14.0
無回答	34	2.8
合計	1,225	100.0

Q34 をみると、特に所属集団の仲間との意見の対立を避ける傾向や自分は素直と回答する市民が多い傾向が確認できる。

**Q35 月にどれくらい本(マンガを除く)を読むか**

	度数	パーセント
0冊	417	34.0
1冊	403	32.9
2～3冊	248	20.2
4～5冊	79	6.4
6～7冊	16	1.3
8冊以上	30	2.4
無回答	32	2.6
合計	1,225	100.0

**Q36 本(マンガを除く)を読むのは、自宅が多いか、それとも  
自宅以外が多いか**

	度数	パーセント
自宅	745	60.8
自宅以外	293	23.9
その他	5	0.4
無回答	182	14.9
合計	1,225	100.0

**Q37 一番よく使う本(マンガを除く)の入手方法**

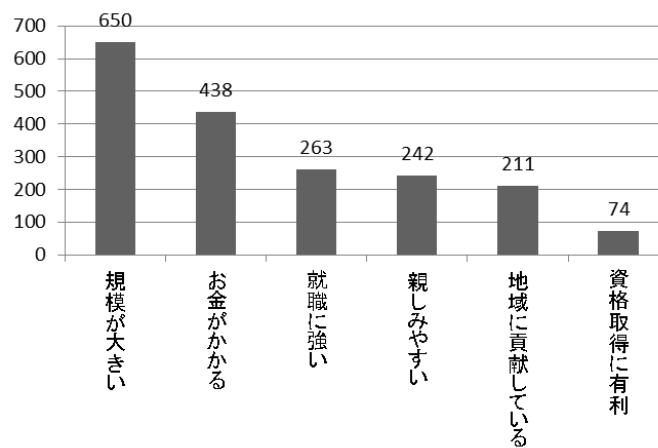
	度数	パーセント
書店購入	672	54.9
古本屋で購入	66	5.4
通信販売で購入	39	3.2
図書館で借りる	185	15.1
人から借りる	50	4.1
その他	75	6.1
読まない	3	0.2
無回答	135	11.0
合計	1,225	100.0

Q35～Q37 をみると、月に読む本の数は3冊以下が8割以上であることがわかる。本を読むのは自宅が多く、本の入手方法としては書店が活用されている。

Q38 親しい人に、関西大学に子どもを進学させたいと相談された場合の賛否

	度数	パーセント
賛成	1,024	83.6
反対	64	5.2
その他	6	0.5
無回答	131	10.7
合計	1,225	100.0

Q39 「関西大学のイメージ」(複数回答可)



Q39 から、関西大学には「規模が大きい」というイメージが特に強いことがわかる。

Q40 関西大学の行事(講演会や学園祭など)に参加したことがあるか

	度数	パーセント
はい	98	8.0
いいえ	1,086	88.7
無回答	41	3.3
合計	1,225	100.0

Q41 参加した行事はどうだったか

	度数	パーセント
面白かった	80	6.5
つまらなかった	14	1.1
その他	3	0.2
非該当	1,088	88.8
無回答	40	3.3
合計	1,225	100.0

**Q42 中学3年生の頃、成績や進路について、親の期待を重く感じたか**

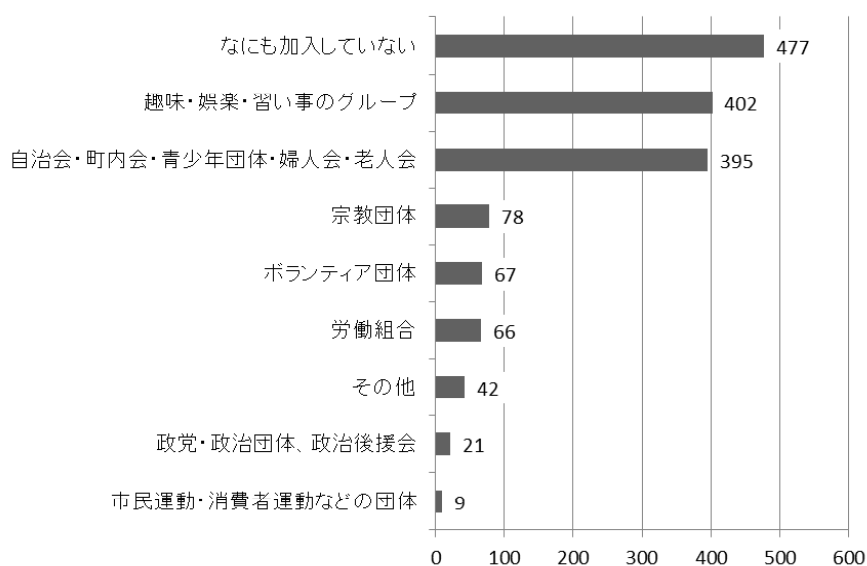
	度数	パーセント
いつもあった	61	5.0
しばしばあった	136	11.1
たまにあった	209	17.1
あまりなかった	474	38.7
まったくなかった	295	24.1
無回答	50	4.1
合計	1,225	100.0

**Q43 中学3年生の頃の学年の中での成績**

	度数	パーセント
上の方	221	18.0
やや上の方	282	23.0
真ん中の辺り	436	35.6
やや下の方	168	13.7
下の方	77	6.3
無回答	41	3.3
合計	1,225	100.0

Q42 と Q43 をみると、中学3年生の頃、成績や進路について、親の期待を重く感じたことが「あまりなかった」「まったくなかった」市民が6割を超えているのに対し、中学3年生の頃の学年の中での成績は全体的に良い傾向であることがわかる。

**Q44 〔所属している組織・団体〕**





Q44\_b 最も重要視している組織・団体

	度数	パーセント
趣味・娯楽・習い事のグループ	277	22.6
自治会・町内会・青少年団体・婦人会・老人会	153	12.5
ボランティア団体	22	1.8
市民運動・消費者運動などの団体	5	0.4
労働組合	35	2.9
宗教団体	46	3.8
政党・政治団体、政治後援会	8	0.7
その他	28	2.3
非該当	474	38.7
無回答	177	14.4
合計	1,225	100.0

Q44\_c Bで回答をした組織・団体で行う活動への参加頻度

	度数	パーセント
積極的に参加している	271	22.1
まあ積極的に参加している	242	19.8
あまり参加していない	127	10.4
参加していない	35	2.9
団体としての活動はない	23	1.9
非該当	463	37.8
無回答	64	5.2
合計	1,225	100.0

Q44\_d Bで回答した組織・団体での政治に関する議論

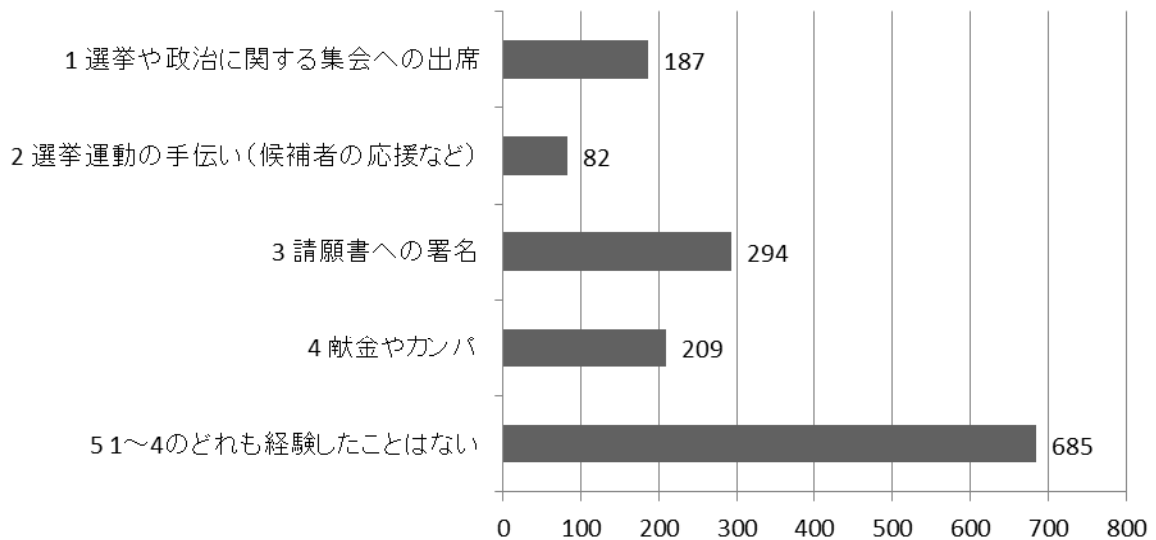
	度数	パーセント
よくある	23	1.9
ときどきある	141	11.5
あまりない	195	15.9
ない	341	27.8
非該当	458	37.4
無回答	67	5.5
合計	1,225	100.0

Q44 をみると、参加している組織や団体としては、「趣味・娯楽・習い事のグループ」や「自治会・町内会・青少年団体・婦人会・老人会」が多いことがわかる。

Q45 政治上の出来事への注意

	度数	パーセント
注意をはらっている	293	23.9
やや注意をはらっている	513	41.9
あまり注意をはらっていない	219	17.9
ほとんど注意をはらっていない	75	6.1
無回答	125	10.2
合計	1,225	100.0

Q46 〔過去五年の間の経験〕



Q45 と Q46 からは、6 割以上の市民が政治上の出来事に注意を払っていること、さらには、請願書への署名が多い傾向があることがわかる。

**Q47\_a 政治とは、自分から積極的に働きかけるものである**

	度数	パーセント
そう思う	180	14.7
ややそう思う	455	37.1
あまりそう思わない	429	35.0
そう思わない	105	8.6
無回答	56	4.6
合計	1,225	100.0

**Q47\_b 政治とは、なるようにしかならないものである**

	度数	パーセント
そう思う	225	18.4
ややそう思う	549	44.8
あまりそう思わない	237	19.3
そう思わない	169	13.8
無回答	45	3.7
合計	1,225	100.0

**Q47\_c 政治的なことにはできればかかわりたくない**

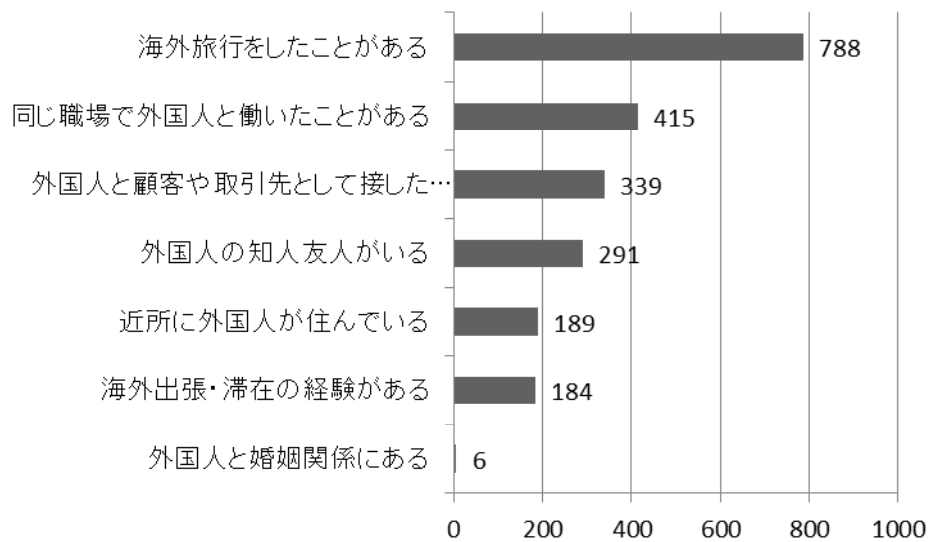
	度数	パーセント
そう思う	185	15.1
ややそう思う	484	39.5
あまりそう思わない	350	28.6
そう思わない	157	12.8
無回答	49	4.0
合計	1,225	100.0

Q47をみると、「政治とは、自分から積極的に働きかけるものである」における「そう思う」「ややそう思う」の回答が5割を超える反面、「政治とは、なるようにしかならないものである」「政治的なことにはできればかかわりたくない」における「そう思う」「ややそう思う」の回答も5割を超えていることがわかる。

Q48 日本人か否か

	度数	パーセント
はい	1,188	97.0
いいえ	2	0.2
無回答	35	2.9
合計	1,225	100.0

Q49 の回答



Q49 から、グローバル化にかかわる体験として、「海外旅行」(64.3%)、次いで「同じ職場で外国人と働いたことがある」(33.9%)が多いことがわかる。

Q50 日本で働く外国人は増えた方がよいか

	度数	パーセント
大いに増えた方がよい	56	4.6
ある程度増えた方がよい	183	14.9
今のままでよい	478	39.0
ある程度減ったほうがよい	151	12.3
大いに減ったほうがよい	68	5.6
わからない	189	15.4
その他	1	0.1
無回答	99	8.1
合計	1,225	100.0

#### Q51 健康状態

	度数	パーセント
1 悪い	46	3.8
2	138	11.3
3	404	33.0
4	320	26.1
5 良い	256	20.9
無回答	61	5.0
合計	1,225	100.0

#### Q52 最近ストレスを感じるか

	度数	パーセント
よく感じる	179	14.6
やや感じる	521	42.5
どちらともいえない	231	18.9
あまり感じない	244	19.9
まったく感じない	30	2.4
無回答	20	1.6
合計	1,225	100.0

Q51 と Q52 をみると、健康状態は良い傾向にあるが、ストレスを感じる市民は約 6 割となっている。

#### Q53 平均睡眠時間

	度数	パーセント
9 時間以上	21	1.7
6~8 時間	670	54.7
4~6 時間	482	39.3
4 時間未満	32	2.6
無回答	20	1.6
合計	1,225	100.0

Q53 から、睡眠時間としては 6~8 時間が 54.7%と最も多いことがわかる。

**Q54\_a【食事の頻度】朝食**

	度数	パーセント
毎日	1,002	81.8
週に5~6回	69	5.6
週に3~4回	35	2.9
週に1~2回	42	3.4
ほとんどない	61	5.0
無回答	16	1.3
合計	1,225	100.0

**Q54\_b【食事の頻度】昼食**

	度数	パーセント
毎日	1,099	89.7
週に5~6回	42	3.4
週に3~4回	43	3.5
週に1~2回	13	1.1
ほとんどない	11	0.9
無回答	17	1.4
合計	1,225	100.0

**Q54\_c【食事の頻度】夕食**

	度数	パーセント
毎日	1,155	94.3
週に5~6回	30	2.4
週に3~4回	18	1.5
週に1~2回	3	0.2
ほとんどない	2	0.2
無回答	17	1.4
合計	1,225	100.0

Q54 をみると、昼食と夕食については毎日とっている人が 9 割程度いるのに対し、毎日朝食をとっている人は 8 割程度にとどまることがわかる。

Q55 家族と一緒のご飯

	度数	パーセント
ほぼ毎日	798	65.1
週に3~4日	132	10.8
週に1~2日	107	8.7
月に1~2日	45	3.7
ほとんどない	105	8.6
無回答	38	3.1
合計	1,225	100.0

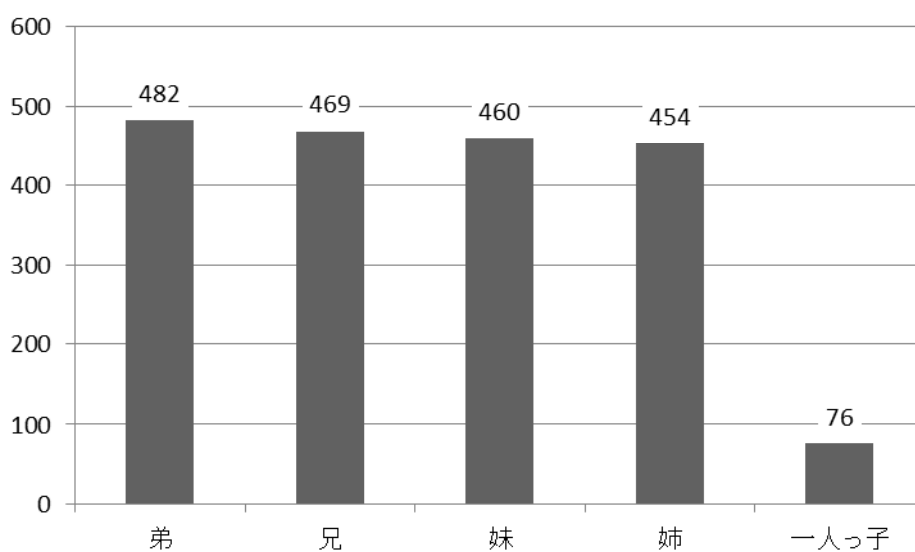
Q55 をみると、家族と一緒の食事は 65.1%がほぼ毎日とっていることがわかる。

Q56 精神的な悩みが生じたとき、1番頼りのなる人

	度数	パーセント
配偶者やパートナー	699	57.1
配偶者以外の家族	243	19.8
家族以外の身近な人(職場・学校・近所の人など)	151	12.3
医者やカウンセラーなどの専門家	38	3.1
保健センターなどの公的機関の相談窓口	10	0.8
その他	48	3.9
無回答	36	2.9
合計	1,225	100.0

Q56 をみると、精神的な悩みが生じたとき、1番頼りのなる人は配偶者やパートナーであり、次いで配偶者以外の家族が多いことがわかる。

Q57 [きょうだい構成]



Q57 をみると、一人っ子が 6.2%であり、ほとんどの市民に兄弟姉妹のいずれかがいることがわかる。

**Q58 家族との会話時間3カテゴリ**

	度数	パーセント
30分未満	256	20.9
30分～60分	538	43.9
60分以上	327	26.7
無回答	104	8.5

Q58 から、1日当たりの家族との平均会話時間は、30～60分が最も多いことがわかる。

**Q59\_a 婚姻状態**

	度数	パーセント
既婚(配偶者あり)	821	67.0
既婚(離別・死別)	145	11.8
未婚	219	17.9
無回答	40	3.3
合計	1,225	100.0

**Q59\_b 婚姻年数カテゴリ**

	度数	パーセント
10年未満	128	10.4
10～19年	119	9.7
20～29年	109	8.9
30～39年	189	15.4
40～49年	220	18.0
50年以上	66	5.4
非該当	372	30.4
無回答	22	1.8

Q59 からは、有配偶者が67%であり、婚姻年数は40～49年が最も多いことがわかる。



**Q60\_a [配偶者との共有時間] 夕食**

	度数	パーセント
ほぼ毎日	609	49.7
週に3~4日	84	6.9
週に1~2日	104	8.5
月に1~2日	13	1.1
ほとんどない	32	2.6
その他	1	0.1
非該当	361	29.5
無回答	21	1.7
合計	1,225	100.0

**Q60\_b [配偶者との共有時間] 買い物やショッピング**

	度数	パーセント
ほぼ毎日	55	4.5
週に3~4日	81	6.6
週に1~2日	362	29.6
月に1~2日	228	18.6
ほとんどない	121	9.9
その他	1	0.1
非該当	355	29.0
無回答	22	1.8
合計	1,225	100.0

Q60 をみると、配偶者との夕食は約 5 割がほぼ毎日であり、配偶者との買い物やショッピングは週に 1~2 日が最も多いことがわかる。

**Q61\_a【配偶者への満足】配偶者の家事への取り組み**

	度数	パーセント
満足	294	24.0
やや満足	325	26.5
やや不満	153	12.5
不満	66	5.4
非該当	362	29.6
無回答	25	2.0
合計	1,225	100.0

**Q61\_b【配偶者への満足】配偶者の子供との関わり**

	度数	パーセント
満足	246	20.1
やや満足	284	23.2
やや不満	97	7.9
不満	43	3.5
子どもはいない	155	12.7
非該当	358	29.2
無回答	42	3.4
合計	1,225	100.0

**Q61\_c【配偶者への満足】配偶者の年収**

	度数	パーセント
満足	175	14.3
やや満足	250	20.4
やや不満	166	13.6
不満	80	6.5
年収を知らない	132	10.8
その他	2	0.2
非該当	363	29.6
無回答	57	4.7
合計	1,225	100.0

Q61 をみると、配偶者への満足は全体的に高い傾向にあることがわかる。

**Q62 配偶者の健康状態**

	度数	パーセント
1 悪い	32	2.6
2	97	7.9
3	293	23.9
4	237	19.3
5 良い	172	14.0
非該当	364	29.7
無回答	30	2.4
合計	1,225	100.0

Q62 をみると、配偶者の健康状態も全体的に良い傾向にある。

**Q63 夫婦関係良好度**

	度数	パーセント
良好	328	26.8
まあ良好	422	34.4
あまり良好でない	65	5.3
良好でない	22	1.8
非該当	366	29.9
無回答	22	1.8
合計	1,225	100.0

Q63 をみると、夫婦関係は全体的に良好であることがわかる。

#### 4. 基本属性項目

Q64 性別

	度数	パーセント
男性	519	42.4
女性	698	57.0
無回答	8	0.7
合計	1,225	100.0

Q64 からは、男性よりも女性のほうがやや多いことがわかる。

Q65 年齢

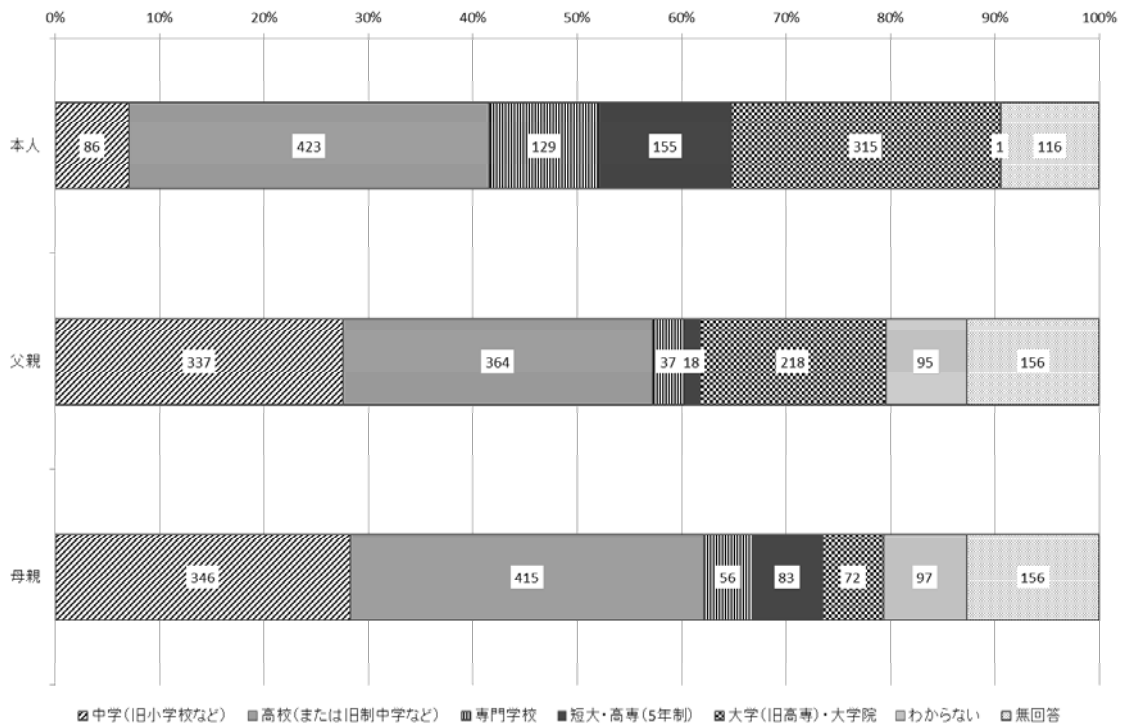
	度数	パーセント
20代	109	8.9
30代	184	15.0
40代	191	15.6
50代	169	13.8
60代	296	24.2
70代以上	265	21.6
無回答	11	0.9
合計	1,225	100.0

Q65 から、50代以上で回答者の6割近くを占めることがわかる。

Q66 職業

	度数	パーセント
常時雇用の勤め人	339	27.7
臨時雇用、パート、アルバイト	195	15.9
自営業主	54	4.4
自営業の家族従業者	27	2.2
経営者、役員	23	1.9
家事専業	225	18.4
学生	21	1.7
無職	282	23.0
その他	34	2.8
無回答	25	2.0
合計	1,225	100.0

Q66 からは、常時雇用が最も多いことがわかる。次いで無職が多いが、これは定年退職後の対象者が多く含まれるためと思われる。



Q67 からは、本人・父親・母親の最終学歴のいずれも、高校が最も多いことがわかる。

#### Q68 居住年数カテゴリ

	度数	パーセント
10年未満	135	11.0
10～19年	157	12.8
20～29年	232	18.9
30～39年	309	25.2
40年以上	377	30.8
無回答	15	1.2

Q68 からは、40年以上居住している市民が最も多いことがわかる。

#### Q69 居住地域

	度数	パーセント
樫田地区(樫田小学校)	1	0.1
高槻北地区(芥川・真上・磐手・奥坂・清水・北清水・安岡寺・日吉台・北日吉台小学校)	353	28.8
高槻南地区(高槻・桃園・大冠・北大冠・松原・桜台・竹の内・西大冠・若松・南大冠・冠小学校)	300	24.5
五領地区(五領・上牧小学校)	47	3.8
高槻西地区(群家・赤大路・阿武野・南平台・川西・土室・阿武山小学校)	197	16.1
如是・富田地区(芝生・丸橋・寿永・富田・柳川・玉川・如是・津之江・五百住小学校)	254	20.7
三箇牧地区(三箇牧・柱本小学校)	31	2.5
無回答	42	3.4
合計	1225	100

Q69 からは、高槻北地区が最も多いことがわかる。

#### Q70 お住まい(一戸建てか集合住宅か)

	度数	パーセント
一戸建て	809	66.0
集合住宅(アパート・マンションなど)	394	32.2
無回答	22	1.8
合計	1,225	100.0

#### Q71 お住まい

	度数	パーセント
持ち家(親などが持ち主の場合も含む)	952	77.7
民間の賃貸住宅	128	10.4
社宅・公務員住宅等の給与住宅	13	1.1
公社・公団等の公営の賃貸住宅	101	8.2
その他	11	0.9
無回答	20	1.6
合計	1,225	100.0

Q70 と Q71 からは、一戸建ての持ち家が多いことがわかる。

**Q72 世帯人数(人)**

	度数	パーセント
1人	115	9.4
2人	394	32.2
3人	307	25.1
4人	256	20.9
5人	99	8.1
6人	24	2.0
7人	9	0.7
8人	2	0.2
無回答	19	1.6
合計	1,225	100.0

**Q73 末子年齢**

	度数	パーセント
3歳未満	65	5.3
3歳以上6歳未満	43	3.5
6歳以上12歳未満	58	4.7
12歳以上18歳未満	68	5.6
18歳以上	614	50.1
子どもはいない	328	26.8
無回答	49	4.0
合計	1,225	100.0

Q72とQ73からは、2人世帯が最も多いこと、さらには、末子は18歳以上が最も多いことがわかる。この点も、対象に高齢者が多く含まれるためであると思われる。

**Q74 本人収入4分類**

	度数	パーセント
100万円未満	343	28.0
100万円～200万円未満	194	15.8
200万円～400万円未満	323	26.4
400万円以上	307	25.1
無回答	58	4.7
合計	1,225	100.0

**Q74 世帯収入4分類**

	度数	パーセント
400万円未満	413	33.7
400万円～600万円未満	244	19.9
600万円～800万円未満	199	16.2
800万円以上	244	19.9
無回答	125	10.2
合計	1,225	100.0

Q74からは、個人・世帯収入はまんべんなく分布していることがわかる。

